

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名：

教師教育開発センター

部局長名：

高瀬 淳

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>⑤センター・機構等業務</p> <p>【全体】 ○全国有数の規模を備える国立総合大学における教員養成の「高度化」を全学レベルで実現するため、教職課程認定学部と教育学部・諸組織の補完的な連携による効果的な指導体制やカリキュラム等に関する自己評価を進め、改善に向けた取組を検討する。 ○教員需要の減少期の到来を見据え、教員研修を含めた教師教育開発センターの役割・機能について検討するとともに、それに適した組織体制の見直しに着手する。 ○センター全体としての取組について、多様なステークホルダー等による外部評価を受けるための準備を計画的に進める</p> <p>【教師教育開発部門】 1. 全学教職コア・カリキュラムを着実に実施する。 2. 教職課程認定学部の教員を対象とした全学教職課程FD研修会を継続して実施する。 3. 全学教職コア・カリキュラムの教材の内容を検討し、必要に応じた改定を継続的に行う。 4. 教員養成の質保証の観点から、全学教職コア・カリキュラムの有効性を検証するとともに、その結果に基づいた改善と研究開発を推進する。 5. 岡山県教委や教育学研究科・学部との共催で、岡山県が推進する「校内OJTチーム」を活用した「授業力パワーアップセミナー（若手教員授業力向上支援事業）」を開催する。教職員支援機構岡山大学センターの研修講座として事業費を獲得し、修了者に修了証を授与する。 6. 数値目標 ・全学教職課程の修了者数(学部・大学院：70名程度) ・教員採用試験受験者数(学部・大学院：20名程度) ・「授業力パワーアップセミナー」の受講者数(40名程度)</p> <p>【教職支援部門】 1. 教職相談室の指導体制や指導内容の充実を図り、利用する学生の要望に応える運営に向けた検証・改善を継続的に行う。 2. 高年次教養科目「教職養成演習」を実施し、担当教員による検証を踏まえた内容・指導方法の充実を図る。 3. 教職への意欲を高めるガイダンスを実施し、学生のリアクションを踏まえた検証・改善を継続的に行う。</p> <p>【教職コラボレーション部門】 1. 岡山県教育委員会、岡山市教育委員会及び岡山大学、三者の要望や課題解決に向けた取組を調整・充実し、効果的な連携協力を検証・推進する。 2. スクールボランティアオリエンテーションの実施等により、スクールボランティアの意義や情報を学生に提供し、教員としての資質・能力の向上とともに、地域共生型循環社会の実現に寄与する。 3. 評価指標 ・スクールボランティア登録者数(9月30日) ・Moodle内スクールボランティアビューローの登録学生数(2月1日) ・岡山県・岡山市教育委員会が実施する研修会等への参加学生数(年間)</p> <p>【理数系教員養成事業部門】 1. 学生及び現職教員の状況を踏まえ、受講者の進路やニーズに対応したCST養成プログラムの内容・指導方法の改善を継続的に実施する。 2. 岡山県・岡山市教育委員会、小・中学校の教育研究会等と連携し、理科教育推進のための研修会を実施し、若手教員を中心とする教員の指導力向上や授業改善を支援するとともに、地域や学校におけるCST活動の推進に向けた援助を行う。 3. CSTの養成及び活動支援のための教材・資料を開発・作成し、それらを活用した授業を提案するとともに、受講者の意見を踏まえた検証に基づいた改善と普及に努める。 4. CST及び地域・学校からの要請に応じて、理科の研究会・研修会のための授業づくりや指導案作成等を支援する(オンラインによる効果的な実施を含む)。 5. 数値目標 ・CST養成プログラム受講者認定基準を上回る受講時数の確保 (学生・科学・教科構成力探究講座3回、課題研究20コマ、研修構成力養成講座1回) (現職教員：現職CST研修講座及び現職課題研究等の定期的講座8日・50時間以上) ・教育委員会及び教育研究会等との連携研修会の実施 (教育委員会との連携研修会5回程度、教育研究会との連携研修会3回程度) (理科ステップアップ研修会受講者の肯定的評価80%以上)</p>	<p>管理運営領域の目標の達成状況</p> <p>【教師教育開発部門】 1. 全学教職コア・カリキュラムの一環として、1年次を対象に「全学教職オリエンテーションⅠ(5/18・水)」、「Ⅱ(10/18・火)」を実施した。新入生対象の「全学教職課程履修説明会資料」を作成し配布した。またコア・カリキュラムの授業として教職入門DI・DII(2年次)、教育実習基礎研究(3年次)、教職実践演習(4年次)を例年通り実施した。 2. 農学部(9/22・木)、工学部(9/30・金)、文学部(11/30・水)、理学部(11/30・水)で、各学部とも20分～1時間程度実施した。 3. 教職入門DI・DIIならびに教育実習基礎研究、教職実践演習の学生用ガイドブックと指導者用ハンドブックの改訂を行った令和5年度入学生より教育学部カリキュラム改革に伴う科目名称の変更等があることから、これに対応する『教職課程履修ハンドブック』を改訂し第六版を刊行した。 4. 全学教職コア・カリキュラムの科目修了ごとに受講者調査を行い、検証のうえ、センター運営委員会及び全学教職課程運営委員会にて報告し、授業改善等への具体策を検討した。 5. 岡山県教育委員会(津山教育事務所)との連携・協働のもと、同事務所管内の公立3中学校と5小学校を対象に、教育学研究科と協働で「授業力パワーアップセミナー」を実施した。受講者は先輩教員11名、若手教員14名で合計25名であった。セミナーの実施に係っては(独)教職員支援機構(NITS)岡山大学センター事業補助費に基づいて行った。 6. 教職課程修了者数は83名(学部61名・院生22名)、教員採用試験受験者数は33名(学部25名・院生8名)、教員採用試験二次試験合格者数は12名(学部8名・院生4名)であった。二次試験合格昨年度の二次合格者数は8名であったため、これを上回る結果となった。</p> <p>【教職支援部門】 1. コロナ対策として、同時利用人数の制限等を実施したため、4月から1月末現在までの利用者数は延べ3,765人であった。(昨年同時期は3,508人)予約が集中する7、8月は、20名(昨年度は15名)の学部教員等の協力を得て、延べ245人(昨年度は99人)の学生に対面指導をした。教員採用試験内定率 教職相談室11回以上利用者…73.5%(114/155人)※昨年67.7%、非利用者…41.2%(14/34人)※昨年度7.1% 相談室利用者の内定率は、非利用者と比較して高い。ただし、100%には未だ及ばず、個々の適性等に合った指導や進路相談をさらに工夫していく必要がある。 2. 4年生5名、3年生22名、GDP1名で、履修者は計28名であった。本年度も6名の外部講師(校長1名、岡山県・岡山市教育委員会から5名)を招聘した。受講学生の満足度は高く、「講師の先生の講話について考えさせられた」と回答した割合は100%に達した。</p> <p>3. 12月実施の3年生向け「教職ガイダンス」の講話担当として、本年度の教員採用試験に合格した4年生等、35人に担当の依頼をした。(参加者数153名)</p> <p>【教職コラボレーション部門】 1. 三者による連携協力会議を11月28日に開催するとともに、各種連携協力事業の概要等を「連携協力事業研究報告書」にまとめた。 2. Moodle内に「スクールボランティアビューロー」のコースを設定し、学生に県内のスクールボランティアに関する情報を適宜提供した。岡山市教育委員会と連携協力し、本学を会場に学校支援ボランティア支援システム「VALEO」の登録会を2回実施した。(本年度の登録者数は549名)</p> <p>【理数系教員養成事業部門】 1. 本年度学生CST養成プログラムでは、第十一期生6名が初級CSTコースに、第九期生1名が中級CSTコースに新たに参加し、第十期生5名が年度末をもってプログラムを修了した。現職CST養成プログラムでは、第十二期生(令和4・5年度生)7名が新たに参加し、第十一期生6名が年度末をもってプログラムを修了した。 2. 教育現場の感染対策の状況を踏まえ、実施内容や条件を岡山県教育委員会等と協議し、地域の理科教育の推進とCSTの資質・能力の向上を図るための理科ステップアップ研修会を5会場で、また、要望に応じて校内及び地域の9つの研修会等の講師を務めた。 3. CSTが日常の授業改善や地域での研修会・研究会等で活用できる教材や資料を作成し、各講座で活用した。なお、小学校における教科担任制や小・中学校でのICT活用等を考慮した学習指導への対応についても考慮して工夫・改善を行った。 4. CST及び地域の教育団体や学校からの支援の要請に応じて、online等で学習指導に対する相談を個別に受けたり、必要に応じて教材を提供、指導、助言等を行ったりした。 5. 講座の区分等を柔軟に運用し、認定基準を満たす時間数を確保できるようにした。また、教育委員会及び教育研究会との連携研修会の指導・助言を14回を行った。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
 注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。